ろくろく

第９号

里山建築研究所筑波山麓録

特集
白雲居 01
上ノ室の離れ 04
和布工房はんてん屋 06
釜揚げうどん店あおやま 07

Information
日本茅葺き紀行 08

report
日本民家集落博物館 08
国際茅葺き会議日本大会

ROKU-ROKU 09 20200205

株式会社 里山建築研究所
〒三〇〇－四二三一
茨城県 つくば市 北条一八四
TEL : 029 - 867 - 1086
FAX : 029 - 867 - 1083
URL : https://satoyama-archi.co.jp/
E-mail : sal@satoyama-archi.co.jp

ろくろく 第九号 二〇二〇年二月五日 発行

会社概要

里山資源を生かした居住スタイルを探る実践的な試みの場として、筑波山の山裾に開設したのが、里山建築研究所です。
現代の里山に循環を取り戻すべく考案された板倉の家を提案し、時代の趨勢によって変わり続ける民家の現代のかたちを探ることが、私達の試みです。

しごと

設計・設計監理
「板倉の家」：新築、改築
「民家再生」：改築、移築
「茅葺き」：葺き替え修繕、新築
「企画制作、調査研究」
「地域づくり支援活動」

編集後記

ひさしぶりの「ろくろく」発行です。特徴的な改修事例を紹介することができました。（K）

改修後南側外観　通りに面して大きく縁側が開かれる

『直して住む』改修特集

白雲居

筑波山の東山は、筑波山参詣の道として江戸時代から町並みが形成され、かつては茅葺きの町家や農家が立ち並び、参詣者をもてなす場として栄えた。

しかし近年では、自動車道が整備され東山を歩く参詣者も数少なくなり、それらの町並みは衰退し空き家が目立つ状況に陥っている。そこに残る茅葺き屋根の家屋は、江戸時代にさかのぼる建物とされ、明治のころに移築されたと伝えられている。

改修前外観

土間から茶の間、座敷をのぞむ

その所有者も農業の後継者がいないことから山を降りて長く空き家の状態となっていた。新しいオーナーは、関東平野を一望できる雄大な眺めに魅了され、また敷地背後のミカンや柿などの果樹や竹林の里山の豊かさにも感動し購入を決めた。筑波山やふもとの研究学園都市を訪れる外国人来訪者へのもてなし場、交流の場として、この古民家を改修することを望んだ。

infomation

「日本茅葺き紀行」発行

日本農村の原風景である茅葺きの里 16 カ所を訪ねるガイドブックです。日本語と英語併記、写真や図版が多数あり、中学生にもわかる平易な表現で茅葺きの地域的多様性が解説されています。茅葺きの面白さが伝わる内容です。屋根だけではなく、茅葺きにまつわる暮らしや民俗なども折りこまれています。

茅刈り、火入れなどで維持される里山としての茅場の多面的価値、マルチ、敷き草、飼料などの茅の多面的利用といった農業と密接に結びついて発達した茅文化にも着目。

弊社、安藤邦廣と上野弥智代が執筆しています。ぜひご覧ください。

編：日本茅葺文化協会
著：安藤邦廣　上野弥智代　訳：杉原バーバラ
発行：農村漁村文化協会　価格：2,700（税別）

report

日本民家集落博物館 事務棟

応急仮設住宅の活用

東日本大震災後に福島県いわき市に建設された板倉構法の応急仮設住宅（設計：里山建築研究所　施工：佐久間建設）が、大阪府豊中市の日本民家集落博物館事務棟として再利用するために移築されました。移築工事は、同じく日本板倉建築協会の会員である丹陽社によって行われ、2019 年 3 月 31 日に竣工式が開かれました。

日本各地の民家を展示しているこの博物館の事務棟として、伝統的な板倉構法にもとづいたこの建物は、景観にも調和しています。震災の記憶を留める建築として民家園の新しい展示施設となりました。

国際茅葺き会議開催

2019 日本大会

里山建築研究所に事務局を置く日本茅葺き文化協会によって、2019 年 5 月 17 日から 7 日間、第 10 回茅葺フォーラムが開催されました。このフォーラムと合わせて国際茅葺き会議 2019 日本大会（白川郷）を開催しました。これは国際茅葺き協会（イギリス、オランダ、ドイツ、デンマーク、スウェーデン、南アフリカ、日本で構成）が 2 年に一度各国の持ち回りで行っている会議の第六回大会として行うはじめての日本大会です。　大会には、世界 6 各国から茅葺職人ら 130 人が来日し、来場者が 700 名を越え、盛況でした。主会場である白川村では「世界の茅葺き、これからの茅葺き」と題し、それぞれの国の茅葺事情についての報告がありました。

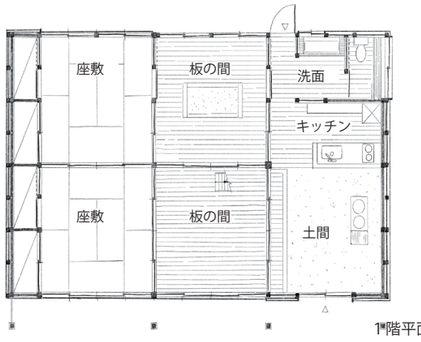
日本からは「地域豊かなかたちとわざ」と題して、日本各地の茅葺きの地域性と循環的利用の意義とこれからというテーマで発表。白川村の中学生が、結の屋根葺き文化と村の魅力を紹介。若手職人からは、日本でも茅葺きを自由に選べる未来にむけて伝えていくことも職人の技のひとつ、との提言がなされました。

さらに各国代表によるパネルディスカッションが行われ、茅葺きは人間の住まい、建築としてのみならず、さまざまな生き物、環境、地球規模で考えられるエコロジカルな資材であることが再認識されました。

裏山斜面に増築した浴室棟

板の間の復元された囲炉裏

開放的な浴室には高野槙の浴槽を設置



1階平面図

白雲居ＤＡＴＡ

延床面積　母屋ー 28.17 坪
　　離れー 3 坪

外部仕上げ

屋根	母屋ー茅葺き	
	離れーガルバニウム鋼板葺き	
外壁	焼スギ	
建具	木製建具	

内部仕上げ

床	スギ本実板 厚１寸	一部漆塗り
壁	母屋ー土壁	
	離れースギ落とし込み板現し	
建具	木製建具	

設計：里山建築研究所
施工：大山建築
造園：高田造園

①下ごしらえの「こまるき」

②軒づけ

③下から葺きあげていく平葺き

④ぐし（棟）に竹簀を取り付ける

来訪者を向えるように設置されたカマドは左官で仕上げられた

土壁を塗りなおす

囲炉裏を囲んでの交流

鉄板に覆われていた屋根を再び茅葺として葺き替え、往時の景観をとり戻した。

土間は吹き抜けの梁組をみせて、力強い構造と技をあらわしている。田の字型の座敷は、そのまま客間として残し、土間に隣接する茶の間には囲炉裏を復元して人が集う場となった。北側には沢水を利用した小さな池があり、それに面して風情のある浴室を新たに増築した。高野槙の浴槽でゆったりとくつろぐことができる。

室内の漆の板には大子の漆、座布団には石下紡ぎ、ホウキはつくば市のホウキ草と県内の特産を使った工芸品で設え、交流に花を咲かせている。

上ノ室の離れ

母屋から離れをのぞむ　今回改修した離れは元々納屋で２階は代々若夫婦の居室として使われてきた

「おじいちゃんの育てた木を使うことはできますか？」

築40年の離れを20代の若夫婦の住まいに改修する計画は、建主さんのこの一言からはじまった。

御年93歳の当家の主が、60年間、仕事の傍ら管理してきたその平地林には樹齢60～90年のスギやヒノキ、マツが美しく林立していた。

２０１７年４月上旬にスギ50本とヒノキ3本を伐採、３ヶ月間葉枯らし乾燥をして、梅雨入り前に玉切り、搬出した。荒製材をした後、風通しの良い乾燥小屋で約８か月間天然乾燥した。

樹齢90年前後のヒノキは、玄関の差鴨居や階段、ダイニングテーブルとして活かし、この家のシンボルとした。

スギは太いものは柱材とするなど、比較的細いものは板材に、適材適所で使用した。また、外壁の仕上げ板はあえて板巾を揃えることはせず、なるべく無駄なく使いきるようにした。もちろん、現場で出た端材は、居間の一角に置かれた薪ストーブの燃料となっている。

ちょうど計画中に曾孫が誕生し、おじいちゃんの木がその成長を静かに見守っている。当家の歴史が詰まったこの住まいには、これから50年、100年と新たな時間が刻まれていくこととなるだろう。

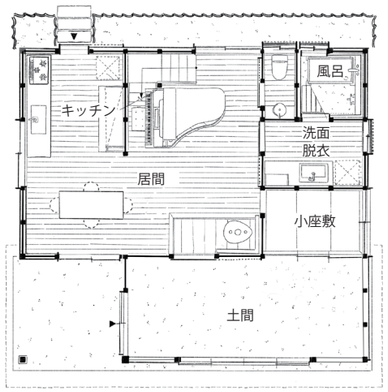
居間の主役はピアノ　その一角に設けた薪ストーブが家全体を暖める

二重に組まれた力強い松の梁組み

外部だった下屋の一部をガラス窓で囲い、光あふれる土間とした

土間に隣接して設けた３畳の小座敷

上ノ室の離れＤＡＴＡ
延床面積：32 坪
外部仕上：
　屋根　瓦葺き（既存）
　外壁　スギ目板張り
　建具　アルミサッシ
内部仕上：
　床　スギ本実板　厚１寸
　壁　スギ落とし込み板現し、
　　スギ本実板 厚 15㎜
　建具　木製建具
設計：里山建築研究所
施工：上林製材所
木材：施主支給、上林製材所
造園：不二造園



１階平面図

製材後に桟積みにして自然観乾燥

伐採後３か月間葉枯らし乾燥

設計図を元に木拾いをして必要分伐採

建設地近くにある平地林

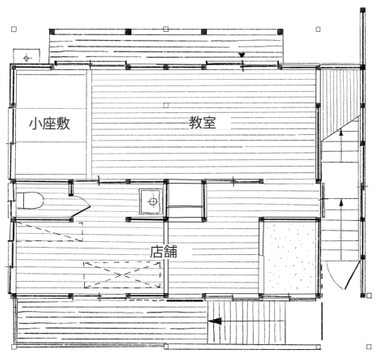
和布工房はんてん屋

正面外観　南側公園に面した日当たりの良いたたずまい

大正生まれの母をもつ木村さんは、幼いころから「はんてん」や「もんぺ」など家庭内で受け継がれてきた手仕事を見て着て育った。それを残したい、次の世代へ伝えていきたいと思うようになり「はんてん屋」を20年前に立ち上げた。教室用のアパート一室を借りてはじめたところ、次第に評判となった。生徒数や商品、仕事道具も増えたことから手狭となり、一棟で4戸のアパート全室をつかうようになる。

その後、終の棲家としての新たな住まいを検討したが、納得のいく物件に巡り合わず、思い切って教室のアパートを改修し教室兼住宅とすることを思いついた。改修のポイントは大きく2つにまとめられた。1つは生徒から好評であった元々のアパート雰囲気を残すということ。もう1つは、4戸に隔てられた壁を取り除き、機能的で広い間取りとすること。不要な壁や重複する設備は取り除かれ、屋外にあった階段も内階段としてより空間を広くした。それに伴い必要な構造補強をした。新たに設けた外壁は、板倉構法で認定された防火構造であるため外壁はスギ板で仕上げることを可能となった。その階段によって店舗と住宅の動線をはっきりさせ、出入りのしやすい1階を店舗とし、公園に隣接し眺めの良い2階を住居とした。

内装もスギ板張りで改修



1階平面図

和布工房はんてん屋 ＤＡＴＡ

延床面積　34.7 坪
ガルバリウム鋼板横葺き
構法：木造軸組み、板倉構法
開口部：アルミサッシ
設計：里山建築研究所
施工：田宮建設

釜揚げうどん店あおやま

店蔵外観　北条の街並みの面影を留めている

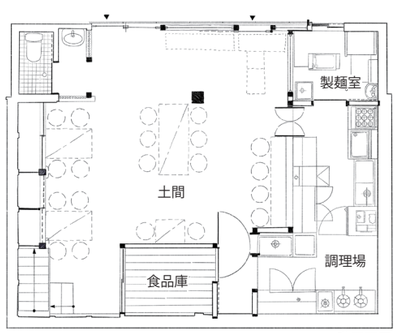
マツの曲がりをいかした下屋の梁

つくば市北条、明治末期に建てられた築90年の店蔵は、呉服屋であった。その後、寿司屋として使われ、また新たな店主がきまり、手打ちうどん店へと改修した。外観は、奥行1間の下屋を瓦屋根へ戻し、前面3間の開口をとり、建築当初の姿に修景した。外壁は構造補強を行なった上でスギ板張りとし、入り口上部に暖簾を掛けられる小庇を付けた。

店内は、全体を広い土間とした。倉庫と箱階段や押し入れは店棚とし活かした。天井や間仕切り壁を新規で設けた以外は当初の姿を留めた落ち着いた店内に仕上げた。

釜揚げうどん店あおやまＤＡＴＡ

延床面積：20 坪
外部仕上：
　屋根　　瓦葺き（下屋）
　外壁　　スギ板張り
　建具　　木製建具
内部仕上：
　床　　コンクリート打放し
　天井・壁　スギ本実板 厚 12㎜
　建具　　木製建具 (一部古建具)
設計施工：里山建築研究所



1階平面図

広々とした店内

改修前外観

1階の和裁教室

近年、南側に面する公園とはんてん屋を除いて街並みは大きく変わった。TXつくば駅から徒歩数分の好立地、再開発が進み、新築することも検討したが生徒や交流した人と共有した思いを残したいと木村さん。昭和のたたずまいを残す建物は、店主だけでなく、お店に集う人々の思いを表す建物となった。